

なるほど！ つみたてNISA 第3回

2017年9月7日

全2頁

どの金融商品で「先取り貯蓄」をする？

つみたてNISAは4つの面で優れた特徴がある

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

「先取り貯蓄」を継続して金融資産を増やしていくためには、貯めやすく取り崩しにくい金融商品が向いています。収益性を求めて保険や投資信託を使う場合は、手数料等のコストも意識するとよいでしょう。つみたてNISAはこれらの面で優れた特徴を持っています。

貯めやすく取り崩しにくい金融商品を選ぼう

最初の2~3ヵ月の「先取り貯蓄」に成功しても、毎月の「先取り」作業に手間がかかると面倒になって続けられなくなってしまうかもしれません。また、「先取り」ができて、頻繁に取り崩して無駄遣いをしてしまっただけではあまり意味がありません。先取り貯蓄で金融資産を着実に増やしていくためには、貯めやすく取り崩しにくい方法を用いることが望ましいでしょう。

先取り貯蓄に用いるために考えられる主な金融商品の候補と、貯めやすさ・取り崩しにくさを比較したものが次のページの図表です。普通預金での先取り貯蓄も考えられますが、簡単に取り崩してしまうのであまりおすすめできません。定期預金の自動積立を利用した場合、貯める面倒がなく、取り崩しにも手続きが必要なため普通預金より取り崩しにくいでしょう。

会社で一般財形貯蓄（財形）を取り扱っている場合は、財形を利用するのもよいでしょう。財形では給与天引きにより簡単に先取りができます。解約時の書面は会社に提出する必要があるので無駄遣いでは取り崩しにくいと思います。特に財形¹の利用者に職場が補助金を出していて、補助金を含めた「利回り」が定期預金より有利になる場合は、財形の利用がおすすめです。

貯蓄型の保険商品や投資信託の自動積立を使った場合も、銀行引き落としなどで簡単に先取り貯蓄ができます。これらの商品を使った場合、解約時に必要な手続きの他、解約時に得られる金額の変動（場合によっては元本割れする）が解約を思いとどまらせる要因にもなります。

収益性を求める場合、手数料（コスト）も意識してみよう

せっかく貯蓄するのでですから、できれば運用による収益も得たいものです。その際には、運

¹ 財形での運用商品が預金であることを想定しています。投資信託などが対象となっている場合もあります。

用にかかる手数料（コスト）も意識したいところです。

保険商品の中には、契約時に円建てで満期保険金や解約返戻金が確定し、10年や20年など長期間保険料の払い込みを続けると、満期保険金や解約返戻金が払込保険料の累計額より多くなる（110%や120%など）ものもあります²。こうした商品は、一見、定期預金よりも収益性が高いように思えますが、途中で解約した場合には元本割れすることが一般的です。これは、払い込んだ保険料の一部が保険機能に充てられたり、手数料に回ったりするためです。保険商品において、保険契約者が実質的に負担するコストは一般には明示されず、分かりにくいものです。

投資信託の場合は、商品の購入時・運用時・解約時の手数料率は、購入前に必ず示されます。さらに、「つみたて NISA」で投資信託を購入する場合は、手数料「率」（例えば、年率 0.5%）だけでなく、購入者が毎年負担する手数料の「実額」の概算値（例えば、年間約 3,000 円）も通知されます。「つみたて NISA」で投資信託を購入すると、コストがとても分かりやすいのです。

図表をみると「つみたて NISA」での投資信託の積立は、貯めやすさ・取り崩しにくさ・収益性・コスト（手数料）の分かりやすさの面で、優れた特徴を持っていると言えそうです。ただし、投資信託は預金や保険商品と違って満期（償還・解約）時の金額の保証はありません。損失が生じるリスクもあります。

リスクがあるならば収益性を求めず、貯蓄は預金であればよく、資産運用は必要ないと思う方もいるかもしれません。ですが、資産運用で収益を得られるか否かが、あなたの老後を大きく左右する可能性もあるのです。今回は、資産運用の重要性について説明します。

図表 先取り貯蓄に用いる金融商品の候補と商品性の比較

商品	貯めやすさ		取り崩しにくさ		収益性		コストの わかりやすさ		リスクを 抑えているか	
普通預金	○	簡単に 入金できる	×	いつでも簡単に おろせる	×	金利水準は低い	○	無手数料	○	元本割れしない
定期預金 (自動積立を行う場合)	○	自動振替 可能	△	解約には手続 きが必要	×	金利水準は低い	○	無手数料	○	元本割れしない
財形 (預金での積立の場合)	○	給与天引 き可能	○	解約には会社 での手続きが 必要	△	会社から補助 金が出る場合 あり	○	無手数料	○	元本割れしない
貯蓄型の保険商品	○	自動引き 落とし可能	○	・解約手続きが 必要 ・早期解約する と元本割れ	△	満期等まで払込 めば利回りが高 い商品もある	×	手数料相当額 がわかりにく い	△	満期等まで払込 めば元本割れし ない商品もある
投資信託 (自動積立を行う場合)	○	自動引き 落とし可能 (注2)	○	・解約手続きが 必要 ・解約(換金)時 の金額は日々 変動する	○	中長期的には 預貯金等より高 い運用利回りを 期待できる 上記に加え、運 用益が非課税	△	手数料「率」を 明確に表示	△~ ×	値動きが特に大 きい商品もある
うち 「つみたてNISA」							○	手数料「額」も 明確に通知	△	十分な分散投資で リスクを抑えている

(注1)これらは一般的な説明であり、全ての金融機関・金融商品についてあてはまるとは限らない。

(注2)預金取扱金融機関および大手証券会社の場合。

(注3)○・△・×は筆者の主観による。

(出所)大和総研作成

(次回予告：なぜ資産運用が重要なのか 9月14日(木)更新予定) 以上

² ここでは、比較的しくみがシンプルな貯蓄型保険商品を紹介しました。